

●2025.11.29 日(土) 15:00-16:30

●提題者：木田信子 名古屋市立高校教諭

馬場万紀子 名古屋市立高校教諭

江口 建 豊田工業大学教授

●テーマ：「総合的な探究の時間における対話探究の取り組みについて」

●zoom

●参加者 一般参加 6名 運営委員 4名 合計 10名

商業高校における哲学対話実践報告

総合的な探究の時間(3年生)での取り組み概要

- 実施形態: 3年生総合的な探究の時間1単位で実施(1・2年生で各1単位)
- 授業構成: 3つの柱で展開
 - 対話探究(タイタン): 問いを立てる力の育成
 - 社会探究活動(シャタン): 対話で培った視点を活用した探究活動
 - 振り返り活動: 学習の定着と深化
- 目標: 対話を通じて自分の考えを述べ、他者の意見を尊重し、社会に働きかける力の育成

開講までの準備と研修の積み重ね

- 2021年度: 3年生での哲学対話導入を決定、基礎研修を開始
- 2022年度: 江口先生(豊田工業大学教授)の伴走により本格的な研修を実施
- 授業後のタイタン(少人数での実践)
- 教員研修会の定期開催
- 年1回の「みんなでタイタン」(全校規模での対話実践)
- 2023年度: 助成金を活用してアートワークも取り入れた多様な実践

2024年度の実施状況と課題

- 担当体制: 4 クラス 8 名の担当者(半数が研修未経験者)
- 実施内容:
 - 1 学期に問い立てと対話を 2 回転実施
 - 2 学期に社会探究活動へ移行
 - 生徒によるファシリテーター挑戦を推進
- 直面した困難:
 - 打ち合わせ時間の確保が困難
 - 20 名弱のクラスサイズでの対話運営の難しさ
 - 教員の負担感と生徒の参加意欲のばらつき

生徒の反応と学習効果

ポジティブな変化

- 普段考えないことを考える機会として評価
- 多様な視点から物事を捉える力の向上
- 一つの話題が広がっていく面白さの発見
- 対話終了後も自然に議論が続く様子

課題として見えたこと

- 発言に対するハードルの高さ
- まとまらない考えを表現することへの躊躇
- 深掘りする問いを立てることの困難さ
- 生徒同士での対話の繋がり不足

教員研修と継続の課題

ファシリテーションの難しさ

- 教師から一人の人間としての立場への転換

- ・ 評価する立場から対話を促進する立場への変化
- ・ 正解を求めがちな教室文化との調整
- ・ 深掘りする質問を投げかける技術の習得

組織的な継続への課題

- ・ 新転任教員への研修機会の不足
- ・ 定期的な打ち合わせ時間の確保困難
- ・ 教育的成果を求められることに対するプレッシャー
- ・ 哲学対話の教育的意義の校内理解促進

今後の展望と提言

江口先生からの示唆

- ・ 問いを立てる力の低下は時代的な課題として認識
- ・ 学校という空間での哲学対話導入の特殊性への配慮
- ・ 「うまくいく・いかない」の基準を対話の本質から再考
- ・ 焦らず地道に続けることの重要性

継続に向けた方向性

- ・ 少人数での対話から段階的にステップアップ
- ・ 各教員の特性を活かしたファシリテーション手法の開発
- ・ 生徒ファシリテーターの育成とフィードバック体制
- ・ 教科横断的な対話活動の可能性探索

アクションアイテム

@木田先生: 哲学対話の教育的価値の再説明

@馬場先生: 担当者間での実践事例共有と相互学習の機会創出

@全担当者: 少人数対話から始める段階的アプローチの検討

@学校全体: 定期的な振り返りと改善のためのミーティング時間確保

質疑応答の主な論点は以下の通りです：

1. キャリア教育と哲学対話の関係

- キャリアの広義的理解
- 職業観を超えた人生の探究
- 対話を通じたキャリア形成

2. 学校教育における哲学対話の意義

- 既存の教育方法への批判
- 対話を通じた思考力育成
- 生徒の主体性と自由な思考の重要性

3. 教員の役割の変容

- ファシリテーターへの転換
- 教える立場から対話を促進する立場へ
- 教員の意識改革の必要性

4. 哲学対話の実践的課題

- 対話の難しさ
- 生徒の参加意欲
- ファシリテーションのスキル

5. 評価の問題

- 哲学対話の成果の可視化
- 短期的・長期的効果の測定
- 従来の評価方法への疑問

6. 教育の本質的な目的

- 知識伝達から思考力育成へ
- 社会変化に対応する教育
- 生徒の資質・能力の開発

これらの論点は、哲学対話を通じた教育改革の可能性と課題を多角的に議論するものでした。

キャリア教育における哲学対話と実用的な職業観の両立について、議論の内容から以下のように考察できます：

1. キャリアの再定義

- 単なる職業選択を超えた「人生の探究」
- 仕事だけでなく、社会との関わり方を考える
- 生き方の多様性を理解する視点

2. 対話を通じた実践的スキル獲得

- コミュニケーション能力の育成
- 他者の意見を聞く力
- 自分の考えを明確に伝える技術

3. 社会変化への対応力

- 固定的な職業観からの脱却
- 変化する社会に柔軟に対応する思考力
- 多様な視点から問題を捉える能力

4. 総合的な進路指導

- AO 入試や総合型選抜への対応
- 対話的思考が求められる入試への準備
- 単なる知識ではない、思考力の評価

5. 企業が求める能力との接続

- 意思決定における対話の重要性
- 多様な意見を統合する力
- 創造的な問題解決能力

6. 長期的な視点

- 即座の職業スキルより、生涯にわたる学習能力
- 自己理解と社会理解の深化
- キャリア形成の基盤づくり

結論として、哲学対話は実用的な職業観を狭義に捉えるのではなく、より広く、深い人生の探究と職業的スキルを統合的に育成する可能性を持っています。